

## 卒業論文「タテ社会の人間関係」今後の予定について

多摩大学 経営情報学部 事業構想学科

21911009 阿部翔太

[21911009sa@tama.ac.jp](mailto:21911009sa@tama.ac.jp)

### 背景

私は、以前ゼミで扱った中根千絵著「タテ社会の人間関係」を、批評した資料と見比べ中根千絵氏が著した本書の内容を考え自身の意見を記すことにした。

タテ社会の人間関係 （講談社現代新書）初版刊行:1970年

著:中根千絵 1926～2021

東京大学名誉教授 日本の社会人類学者 女性初の東京大学教授 国際人類学民族学連合名誉会員等。専門はインドチベット・日本の組織社会。

本書は、日本の社会集団、上下関係等などの組織の特徴について著した本である。本書は初めに、「資格」と「場」という言葉を用い、日本人は会社員や教授であるという「資格」ではなく所属する組織そのもの、いわゆる会社名、大学名という「場」を重視するという傾向があると説明し、それを踏まえ日本人が「場」に対しどのような参加をするか、どのような組織が形成されるかを説明する。加えて参加の結果、リーダーという存在が組織を如何様にまとめていくのか、どのような立ち位置となるのを説明している。

### 「日本人論」考

中根千絵「タテ社会論」 著 門倉正美

本書は抽象的に中根千絵氏の「タテ社会の人間関係」に対し、細かい批判と指摘を行っている。資格と場の定義があいまいであることや、インドの例を挙げることは中根氏のフィールドではあるが偏っている事、中根氏が序列制を嫌悪し過去に学会にて自身の意見が受け入れられなかったことが原因ではないかと、以上は一例であるが様々な指摘を行っている。

日本のタテ社会性について 日本の政治社会と日本人の研究（1973）

上智大学教授

本書は中根千絵「タテ社会の人間関係」に対し章ごとに自身の意見、考察、批判を行っている。筆者は日本人のバイタリティとその原因を考察した後に、中根千絵氏のいう、タテ社会と言う概念を本に描きだしたことを評価している。中根が独創的な学者が持つ分析力と構

想力を備えている。また中根理論を貫いている、豊かな感受性と直感力があると評価をしている。しかし中根氏が用いた中国との比較については、中国には地域性が多くあり人間性に影響するのではないかと指摘している。

#### 参考文献

- (1) 中根千絵 (1967) 「タテ社会の人間関係」. 講談社現代新書. 189 ページ
- (2) 門倉正美 【「日本人論」考】 [中根千絵 「タテ社会論」 批判] pp1-11
- (3) 相沢久 (1973) 「日本のタテ社会性について：日本の政治社会と日本人の一研究」 pp1-pp80